特定医療法人社団千寿会
三愛病院

千葉 泰二（ちば やすじ）　三愛病院理事長

特定医療法人社団千寿会三愛病院理事長・院長。
平成11年、三愛病院院長、25年理事長・院長。
北海道精神科病院協会常任理事、室蘭市医師会理事、北海道老人保健施設協議会副会長、全国老人保健施設協会ブロック理事、日本精神科病院協会理事、同協会高齢者医療・介護保険委員会委員。東邦大学医学部卒。登別市出身。

おかげさまで 60周年

三愛病院

医療・保健・福祉のトータルケアを目指して

精神障害者と高齢者のために、地域に密着した安心できる質の高い医療の提供と保健・福祉のトータルケアを目指す、特定医療法人社団千寿会三愛病院が開院60周年を迎える。2027年に完成する「新中央リハビリ棟」など、地域医療や患者、その家族の心に寄り添う医療に一層の力を入れる。千葉泰二理事長へ60周年の思いや今後、高齢化が加速する地域医療や患者、家族に寄り添う医療機関としての思いを聞いた。

〒059-0463 登別市中登別町24番地12
TEL：0143-83-1111
診療時間　午前　9：00～12：00
　　午後13：00～17：00
（土曜午後、日曜祝日休診）
E-mail：post@sanai-hospital.or.jp

60周年を迎えたことについて

1965年に父親である千葉壽良が千寿会を創設し、1999年に私が引継ぎ幾多の困難もありましたが職員や地域の皆様に支えられ、無事60周年を迎えたことに大きな喜びとともに関係者の皆様に感謝を申し上げます。三愛病院としては2代目ですが、祖父も医師でしたので、先代から受け継いだ歴史を途絶えさせず、先を見据えた戦略として、一般市民も利用できる療養環境を整えていきたいと考えています。次の世代へバトンをつないでいきたいと思っています。

開院時から大切にしていること、今も引き継がれていることは

職員には働きやすい環境の提供を、患者さまやご家族には心に寄り添った信頼される医療や介護の提供を心がけています。また他の医療機関や介護施設とも連携し急性期の早期介入や、精神障害者、高齢者の地域移行や在宅支援にも力点を置いています。

理事長就任からこれまでを振り返って

理事長に就任してから、病院や施設の稼働率や利用者の確保など経営の安定を重視してきました。近年は西胆振の人口減少により少子高齢化が進み、働き手の確保が難しくなっています。また病院や施設の公定価格である診療報酬や介護報酬の改正の収入が伸びず、法人経営に苦慮しているところであります。しかし、若い職員が育ってきており30代～40代が責任者として働いています。動きもよく、早く、和気あいあいとしています。また福利厚生についても、エスコンフィールドのシーズンシートの提供や、バスツアー、ボウリングやビアパーティーなども行っています。みんなが同じベクトルを向き、新しい風を作る―、良い方向に進んでいるところです。

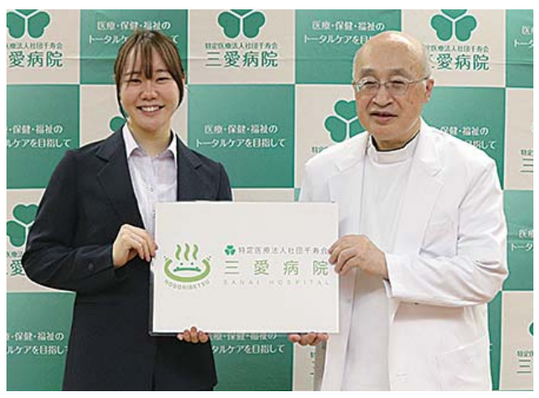
病棟や関連施設の展開は

2027年4月ごろに「新中央リハビリ棟」が完成します。3階建てで、1階は当院の歴史資料館や厨房、2階はリハビリテーションフロア（精神科作業療法・身障作業療法・言語聴覚療法）、3階は個室や特別室合わせて60床を設けプライバシーに配慮しています。認知症を含めた高齢者に対する身体合併症治療や、神経症や気分障害などの精神疾患を対象とした精神科病棟として運営していくつもりです。誰でも認知症になったりします。精神科の療養環境をよくすることで、できるだけ多くの人に利用してもらいたいと思っています。精神科との心の距離みたいなもの、病院との距離を近くしたいと考えています。2022年に開設した虚弱老人や要支援者を対象とした「住宅型有料老人ホーム　山桜の郷」もようやく市民の皆様に認知されてきていますが、まだ若干余裕がありますので、入居について検討いただければと思います。

2027年4月完成予定の「新中央リハビリ棟」

プロ選手とのスポンサー契約を締結しましたね

スピードスケートでオリンピック次世代のメダル候補と期待される吉田雪乃選手とのスポンサー契約を5月に結びました。当院がプロ選手とのスポンサー契約を結ぶのは初めてです。60周年を迎えるにあたり、スポーツや文化など地域貢献活動ができればと考えていたところ、元スピードスケート選手の清水宏保氏を介して岩手県在住である吉田選手をご紹介いただきました。ワールドクラスの選手なので、海外での大会がメインとなる選手です。オリンピックでのメダル獲得を楽しみにしています。



クラブ活動について

当院の野球チームは1967年に職場のチームワーク作りを目的として創部し、1990年に東日本軟式野球部選手権1部で東日本優勝をはじめ、天皇杯、国民体育大会などの全国大会に出場し活躍してきました。一時活動を休止した時期もありましたが、2022年より看護師などで構成のもと再始動し、2024年度は東日本軟式野球大会（2部）・南北海道大会（日高）で全道大会出場、2025年度は天皇賜杯（2部）、南北海道大会（函館）と高松宮賜杯（2部）南北海道大会（石狩）、東日本軟式野球大会（2部）・南北海道大会（千歳）で全道大会出場するまでに復活しました。ここまでの成績を残した野球部員の皆様に感謝するとともに、今後ますます の活躍を期待しているところです。

人材不足の課題に向けては

法人運営にとって重要なテーマであり課題の一つです。5月に北海道文教大学と地域振興や人材育成を目的にした包括連携協定を締結しました。当院が大学と、また同大が登別の病院と協定を締結するのは初で、今後綿密に計画を進め本格的な活動を行っていきます。

また、当院では現在医療・介護職員の一部は、在留資格（介護）や特定技能のベトナム人、インドネシア人、ミャンマー人などの雇用で維持しているところですが、今後の雇用には限界を感じています。2021年4月から外国人雇用をはじめ、現在15人がいます。来年の4月に新たに15人増え30人となり、高齢者、介護施設の介護員、介護福祉士などとして働きます。人材確保は単独では困難であり、登別市や室蘭市の市長には行政が中心となった、市民に定着する転居しない魅力ある街づくりについて、ぜひ考えていただきたいです。

新しいロゴができましたね

「登別」をアピールするために、温泉と鬼のマークを付けました。ロゴは今後企業としても使用していきます。吉田選手が着用するユニフォームには、今回新たに同院が作成したロゴが入る予定です。従前のロゴ、三つのハート（三愛）も、大切にしていきたいと思います。

60周年を迎えた記念事業があると聞きました

Bリーグ所属のプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の運営会社代表取締役社長・折茂武彦さんを講師に迎え、11月6日に記念講演会を開催します。また、職員や患者さまが利用している1970年に建設した温泉浴室棟が老朽化したため、2025年4月にリニューアルしました。

地域医療の今後の考えは

高齢化率は上昇しますが、2040年をピークに高齢者人口も減少すると推計されており、今後医療機関や介護施設での患者さまや高齢者の確保は難しくなってくるかと思われます。当法人は軽度認知障害（MCI）や、認知症を含めた高齢者に特化した医療・介護サービスの提供を中心に継続していきたいと考えています。

特定医療法人社団千寿会
三愛病院
SANAI HOSPITAL
NOBORIBETSU

看護職員大募集！

下記の職種で入職お祝い金支給します！
- 正看護師
- 准看護師
- 看護助手
- 介護福祉士

三愛病院ホームページ「採用応募フォーム」からご応募いただいた方が対象。※規定あり
応募フォーム
特定医療法人社団千寿会 三愛病院
担当：人事課 出崎
TEL：0143-83-1111（代表番号）

特定医療法人社団千寿会 三愛病院 開院60周年記念講演会

2025年11月6日(木)
開場13時30分 / 開演14時00分
会場　登別市民会館　大ホール
登別市富士町7丁目33番地1

©LEVANGA HOKKAIDO

北海道のために ～選手として、経営者として～

参加費 無料！
来場者全員に 記念品（ボールペン）プレゼント！

演者
株式会社レバンガ北海道
代表取締役社長　折茂 武彦氏

Web申込はこちら